

2017.11.30

第3回 人生100年時代構想会議

リカレント教育および高等教育改革のあり方について

日本労働組合総連合会(連合)

会長代行 逢見 直人

リカレント教育および高等教育改革のあり方

持続可能な社会の発展を担う人材を育成するために、**社会人の学び直しなど、生涯学習の観点から必要な教育環境の整備**が求められている。学び直しの壁となっているのは、「**時間**」と「**費用**」の問題である。**有給教育休暇の制度化や費用の補助**が必要。

1. リカレント教育の推進

- ・社会人の学び直しには、「時間」と「費用」が2つの壁になっている。
- ・「有給教育休暇」の制度化や時間外労働の上限規制、大学などの高等教育機関で学ぶ社会人への助成制度の拡充が求められる。

3. 高等教育改革

- ・第4次産業革命などの変化を捉えるとともに、地域活性化に資するよう、持続可能な社会の発展を担う人材を育成すべきである。
- ・その基盤として、給付型奨学金の給付額および対象者数の拡充、貸与型奨学金の完全無利子化、大学などの授業料の引き下げが求められる。

2. 職業訓練

- ・技術・技能の陳腐化により、業種転換・離職などを余儀なくされる労働者に対する技術の研鑽と新技術の習得が必要。
- ・労使が拠出している雇用保険を財源とするものは、確実に雇用に関与する案件に限定し、それ以外の用途に拡大すべきではない。

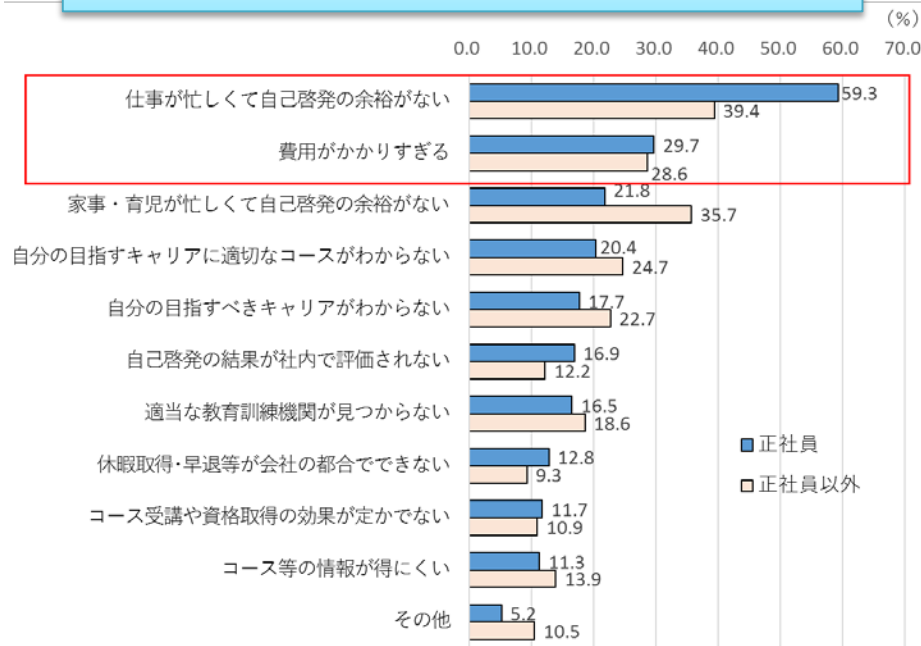
4. 高等教育機関のあり方

- ・社会人特別選抜枠の拡大等の編入制度の弾力化、夜間大学院の拡充、科目等履修制度・研究生制度の活用、通信教育・放送大学の拡充を進めるべきである。
- ・また、公開講座を拡充するとともに、施設の地域開放を進めることも必要である。

大学における社会人入学者の割合の低さと 社会人の学び直しの2つの壁

「時間」と「費用」の2つの壁、教育機関のプログラム提供体制の課題を克服し、社会人の誰もが学びたいときにいつでも学び直しができる環境を整備していく必要がある。

図1 自己啓発に問題があるとした労働者

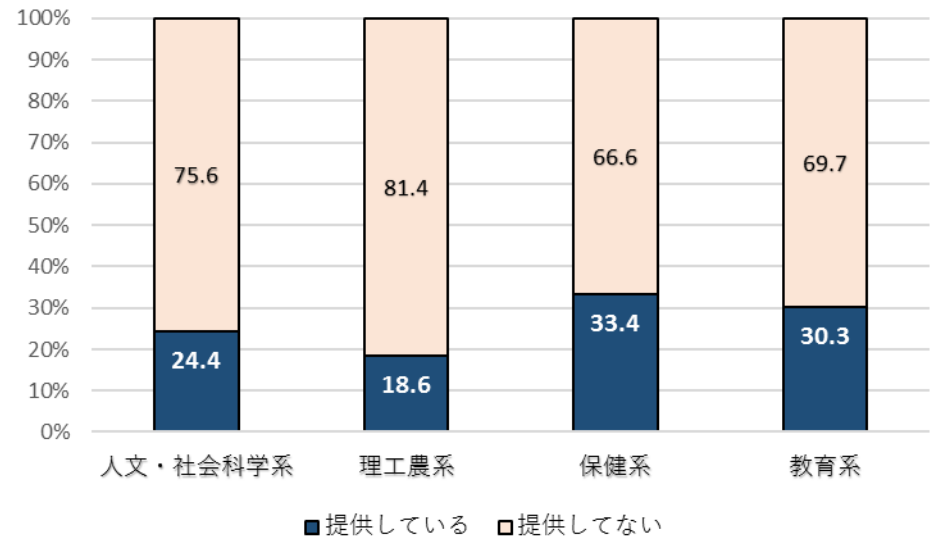


出所：2016年度能力開発基本調査（厚生労働省）

社会人が学び直しをする際に、「時間」と「費用」が2つの大きな壁になっている。

- 「有給教育休暇」の制度化、時間外労働の上限規制
- 学び直しへの公的費用補助の拡大が求められる。

図2 社会人を対象としたプログラム提供状況
(大学院：専攻分野別)



出所：社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査
研究報告書（文部科学省：2017年）

大学院の社会人を対象としたコースは限定されている。提供しているとした大学院でも、「正規課程」のみの提供は73.3%である。なお、提供していないと回答した大学院の85.4%が「今後もその予定がない」と回答している。